

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

# 平成21年度横浜市文化財指定 指定2件・登録3件

横浜市では横浜市文化財保護審議会（会長 西和夫）の答申・回答を受け、指定文化財として「木造阿彌陀如来及び両脇侍立像（もくぞう あみだによらい および りょうきょうじ りゅうぞう）」など2件の指定と、地域文化財として「日米和親条約締結の地」など3件の登録について本日、指定・登録しました。

なお、今回の指定・登録によって、指定文化財は143件、地域文化財は90件となります。

## \*新たに指定・登録された文化財\*

[指定文化財]木造阿彌陀如来及び両脇侍立像



[指定文化財]茅ヶ崎城址



[地域文化財]日米和親条約締結の地



[地域文化財]横浜  
道の堅牢地神塔



[地域文化財]印融法  
印の墓（三会寺）



※写真はデジタルデータでの提供が可能です。当課まで御連絡ください。(TEL671-3238)

## 平成21年度 新指定文化財概要

☆指定文化財は文化財保護審議会で「国・県指定文化財以外の文化財のうち横浜の歴史、文化または自然を理解する上で重要なもの」と判断されたものです。

### 1 木造阿弥陀如来及び両脇侍立像（彫刻） 三軀 （鎌倉時代）

所有者 宗教法人正安寺  
所在地 栄区長沼町636番地

像高は、阿弥陀如来 97.5cm 左脇侍（ひだりきょうじ）60.4cm 右脇侍（みぎきょうじ）61.9cm。中央の阿弥陀如来像に、両手で蓮台（れんだい）を持つ観音菩薩像と、合掌する勢至（せいし）菩薩像がしたがう三尊像で、阿弥陀三尊が往生者の前に来迎する姿を表現している。繊細な作風や現実感あふれる表情には鎌倉地方彫刻の特徴が顕著で、すぐれたできばえにくわえ、表面の漆箔（しつぱく）も製作当初のものを残すなど、保存状態も良好である点も評価される。（光背などは江戸時代のもの）

### 2 茅ヶ崎城址 （史跡） （14世紀末～16世紀末）

所有者 横浜市  
所在地 都筑区茅ヶ崎東二丁目25

中世城郭跡。6つの郭（くるわ）と空堀（からぼり）、土塁（どるい）からなる中世の山（丘）城で、その規模は、東西350m、南北220m、総面積4.4ha（整備面積約2.5ha）と推定される。築城者や築城時期は、不明であるが数度にわたる発掘調査の結果、空堀・土塁等の遺構は良好な状態で遺存しており、14世紀末から15世紀初めに築城され、16世紀にかけ、前後3期にわたる築造の跡が確認されている。土塁や空堀等が良好な形で残る市内でも唯一の中世の城郭として、郭の配置や城址の変遷を知る上で学術上の価値は高い。古くから多田山城守墨跡（ただやましろのかみりいせき）とも呼ばれ、摂津守源頼盛（せつつのかみみなもと）の子、多田太郎が城主であったとの伝承がある。

## 平成21年度 新地域文化財概要

☆地域文化財は「地域の方々が大切に守ってきた文化財、地域の歴史を知る上で必要な文化財を登録し、地域で大切に保存していただく」というものです。

### 1 横浜道の堅牢地神塔 （地域有形民俗） 一基 （明治時代）

所有者 不明  
所在地 港南区丸山台三丁目36番23号

現在、丸山台自治会第二会館敷地内にあるが、もとは上永谷町丸山にあったもの。安山岩製で、正面に「堅牢地神」と刻まれ、両側面が道標に使用されている。明治初期の庶民信仰を表すばかりでなく、当時の交通路を示す好資料である。

### 2 印融法印の墓（三会寺） （地域史跡） （室町時代）

所有者 宗教法人三会寺  
所在地 港北区鳥山町730

印融（1435～1519）は緑区三保町生まれと伝えられる室町時代の学僧で、高野山で研鑽を積み、横浜市域を中心に布教等を行って真言宗の復興に努めた。墓に紀年銘を有するのは稀であり、印融の事蹟からみても地域史跡にふさわしい。（印融の入滅地は観護寺（かngoじ）または三会寺と伝わり、観護寺の墓も地域史跡となっている。）

### 3 日米和親条約締結の地 （地域史跡） （江戸時代）

所有者 横浜市  
所在地 中区日本大通3番の2他

アメリカ合衆国の使節は、1853年に浦賀沖に現れ日本に開国を促す大統領の親書を幕府役人に手渡した。翌1854年1月に再来航して親書の回答を求めた。幕府は会談のための応接所を横浜村のはずれに設けた。その場所が現在の開港広場と横浜開港資料館の辺りである。会談の末、3月に日米和親条約が締結された。開港150年にあたり、この地を地域文化財として保護することは意義深い。